

笹川保健財団 地域啓発活動助成

2021年 9月 1日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2020年度地域啓発活動助成
活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

緩和ケア地域連携推進の為の多職種カンファレンスの開催

活動団体名：

活動者（助成申請者）名： 富山市立富山市民病院緩和ケア内科 船木 康二郎

1. 活動の内容・実施経過

緩和ケアの普及により、富山市とその周辺では各医療機関で緩和ケアなどが活発に行われるようになってきており、また在宅緩和ケアについても緩和ケア活動も活発になってきている。しかし地域全体としての連携が十分ではないのが現状である。

2016 年度に今回の申請と同テーマで笹川記念保健協力財団地域啓発活動助成を受け『富山緩和ケア地域連携ワークショップ』を開催し、様々な施設・職種の医療従事者 89 名が参加し講演と自由討論を行い富山の緩和ケアの取り組みや地域連携についてディスカッションを行った。ここでは発表者を中心に参加者で緩和ケア地域連携に関して様々な立場から話し合い当地域の現状の共有を行った。

2018 年度の同助成では、事前に緩和ケア地域連携に関するアンケート調査を行い当地域の現状と課題を明らかにした。その後開催したワークショップでは、アンケート結果をもとに緩和ケア地域連携に関するグループワークを行い参加者一人一人の意見を取り入れて今後の緩和ケア地域連携について取り組もうと考える活動を具体的にあげた。

2020 年度は、活動計画の時点では過去 2 回のワークショップの内容を更に発展させ、緩和ケア地域連携のための具体的な活動の推進や今後継続して活動を行うためのワークショップを開催し、このような活動が定期的・継続的に行われるような組織作りを行うことを目的としていた。

しかし新型コロナウイルス感染拡大により、当初予定指定していた通常の集合形式でのワークショップの開催が困難になった。そのような状況の中で、緩和ケア地域連携のための活動の推進と今後の継続した活動のための組織作りを行うと本活動の目的のために現状で施行可能で、必要とされと考えられる活動に変更を行うこととした。

新型コロナウイルス感染拡大により、今までとは異なる医療・介護・地域連携が必要な状況となっておりと考えられ、まず地域の現状把握を行うためにアンケートを行った。そしてアンケート結果をもとに緩和ケア地域連携についてウェブ会議システムを利用してウェブカンファレンスやウェブ学習会を開催し、その成果も踏まえて今後様々な連携が継続して可能となるようなシステムを作っていくことを目的とし活動を行った。

2. 活動の成果

活動①

地域の現状把握を行うために地域の医療・介護施設に対して新型コロナウイルス感染拡大による影響と、今後地域緩和ケアのために必要と考えられる利用したいものを把握するためのアンケートを行った。

アンケート配布施設：富山県内の医療・介護機関 500 施設

アンケート方法：アンケート用紙を郵送し、郵送での回答又はインターネットサイトでのウェブ回答をしてもらう（同一施設から複数人の回答は可能とした。）

アンケート返信：304 通（郵送回答：165 通、ウェブ回答：139 通）

アンケート結果（資料 1）

【アンケート結果の抜粋】

今後緩和ケア地域連携を進めていく上で以下のものがあれば利用したいと思いますか。

（利用したい+やや利用したいと回答した割合）

集合形式での意見交換の場	39.3%
オンラインでの意見交換の場	62.8%
集合形式での学習会	37.1%
オンラインでの学習会	72.1%
YouTube などの動画による学習システム	64.0%
メーリングリストによる連携	32.4%
SNS による連携	29.9%
専門スタッフによる対面形式の相談	48.1%
専門スタッフによるオンラインの相談	59.6%
地域連携をまとめる組織や機関	67.6%
自治体などの支援・協力	63.9%

新型コロナウイルス感染状況の影響でオンラインでの様々な活動に対する要望が増えてきていると考えられる。アンケートの集計結果ではオンラインへの希望が多くを占めたが、個別のアンケートの回答を見るとやはりオンラインの利用を希望しない医療従事者や施設も少なからずあり、完全にオンライン化するという事も難しいというような印象を受けた。

このアンケート調査をもとに今後様々な医療従事者や施設などの実際の意見を聞いていき地域の緩和ケア地域連携活動にいかしていけば良いと考えた。

活動②

アンケート結果をもとに近隣 3 施設とウェブ会議を行い情報共有を行った。

現在まで情報共有を行った施設はオンラインに積極的な施設が多く、今後オンライン化により感染の状況に対してだけでなく、距離があり集まることが難しいスタッフ間での情報共有も可能となると考えられるという意見も聞かれ、積極的にこのような情報共有を行っていくことを話し合った。

地域との情報共有のための多施設合同のウェブカンファレンスや希望施設とのウェブ連携や学習会の要望がいくつかあり本助成期間が終了した後も、さまざまな会の開催を検討している。

3. 今後の課題

今回のワークショップは当初の予定とは大幅に内容が変更となったが、新型コロナウイルス感染拡大下の地域の状況や考えの把握ができ一定の成果があったと考えられる。

しかしアンケートや地域の考えをもとにした活動はまだ始まったばかりで今後地域のスタッフと積極的に情報共有を行いながらオンラインでの交流や直接的交流を持てるようにしたいと考えている。

今後新型コロナウイルス感染がまだ続いたとしても収束したとしても、当地域の緩和ケア地域連携が発展するような活動を継続したいと考えている。

4. 活動の成果等の公表予定（学会、雑誌）

今回のアンケートで新型コロナウイルス感染拡大下における当地域の緩和ケア地域連携についての現状が把握できた。このアンケート結果は当地域の現状を表した価値のあるものであると考えられ、アンケート結果の更なる分析を行い学会発表や論文発表などしたいと考える。

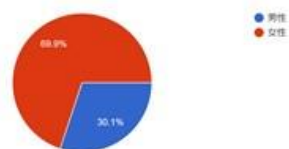
また、今後継続して行う当ワークショップの活動の内容と成果について学会発表や論文発表をしたいと考える。

資料1

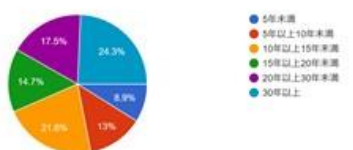
所属
305件の回答



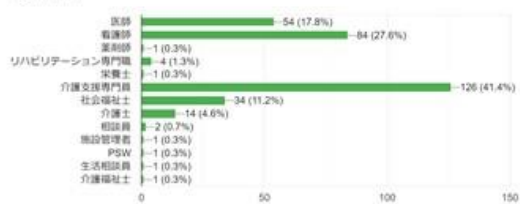
性別
299件の回答



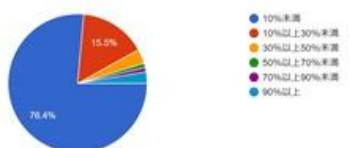
臨床経験年数
292件の回答



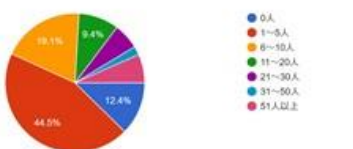
職種
304件の回答



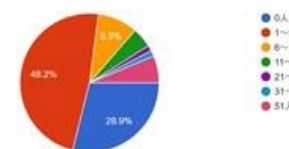
日常業務において緩和ケアに従事する割合
297件の回答



過去一年間で、あなたの施設で関わった悪性腫瘍患者は何名ですか
299件の回答



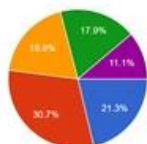
その内看取りまで関わった患者は何名ですか
301件の回答



過去一年間で、あなたの施設で死亡3か月前から死...患者（悪性疾患の有無に関わらず）は何名ですか
302件の回答

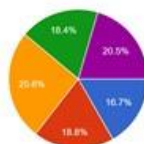


他施設との連携が減った
296 件の回答



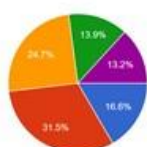
- そう思う
- ややそう思う
- どちらとも思えない
- あまりそう思わない
- そう思わない

自施設で受け入れができない状況があった
293 件の回答



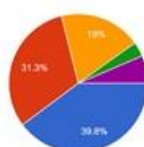
- そう思う
- ややそう思う
- どちらとも思えない
- あまりそう思わない
- そう思わない

他施設に受け入れをしてもらえない状況があった
295 件の回答



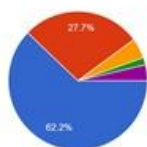
- そう思う
- ややそう思う
- どちらとも思えない
- あまりそう思わない
- そう思わない

院内の勉強会や研修会などの開催が減った
294 件の回答



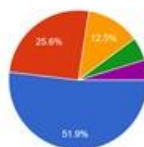
- そう思う
- ややそう思う
- どちらとも思えない
- あまりそう思わない
- そう思わない

院外の勉強会や研修会などへの参加が減った
296 件の回答



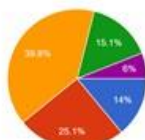
- そう思う
- ややそう思う
- どちらとも思えない
- あまりそう思わない
- そう思わない

オンラインによる連携が増えた
297 件の回答

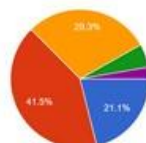


- そう思う
- ややそう思う
- どちらとも思えない
- あまりそう思わない
- そう思わない

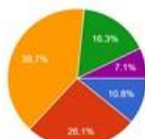
集合形式での意見交換の場
299 件の回答



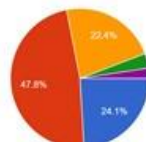
オンラインでの意見交換の場
294 件の回答



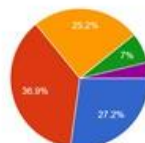
集合形式での学習会
295 件の回答



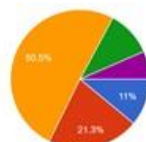
オンラインでの学習会
295 件の回答



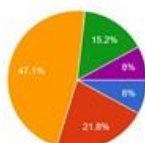
YouTubeなどの動画による学習システム
298 件の回答



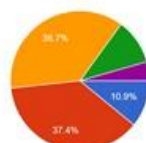
メールリストによる連携
291 件の回答



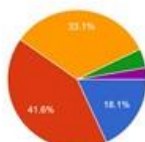
SNSによる連携
289 件の回答



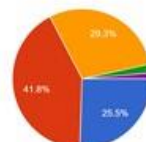
専門スタッフによる対面形式の相談
294 件の回答



専門スタッフによるオンラインの相談
293 件の回答



地域連携をまとめる組織や機関
294 件の回答



自治体などの支援・協力
295 件の回答

